

介護概論

～20◆

科目コード●CL2120

担当教員●後藤美恵子



4 単位

R

2 年以上

※この科目は、平成20年度以前入学者に対して開設されている科目です。

※21年度以降に開講されている高齢者福祉論スクーリングの7～12コマめの講義内容は、20年度以前の介護概論のスクーリングと一部重複しますので、ご了承ください。

※この科目は平成22年度より履修方法が「R」となりました。

科目の内容

要介護者の生活支援においては、その援助に医療、保健、福祉などの分野が包括的に関わってきます。本講では、まず、要介護者に対する介護とはどのようなものなのかを理解するために、前半では、要介護者理解のための福祉的援助の考え方や基本的知識を学習します。これを踏まえて、後半では、生活援助を展開する上で必要となってくる専門的知識や方法論の概説、ならびにその実際を取り上げることにより、生活支援技術の基礎理論を習得することを目的とします。

到達目標

- 1) 介護を取り巻く社会的背景について説明できる。
- 2) 「介護」をどのように定義づけるのか、介護の概念について説明できる。
- 3) 介護の範囲の考え方と専門性に求められる資質について説明できる。
- 4) 介護過程の仕組みについて説明できる。
- 5) 認知症の原因と症状を踏まえ、認知症高齢者の対応方法について説明できる。
- 6) ターミナルケアについて生活の質の観点から説明できる。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『新版 社会福祉士養成講座14 介護概論（第4版）』中央法規出版、2008年

在宅学習15のポイント

『レポート課題集 A（社福・精保指定科目編）』「介護概論」参照

レポート課題

1 単位め	介護の概念を捉えた上で、介護の神髄と職業倫理についてを介護の社会的動向と関連づけながら、具体的に論述しなさい。
2 単位め	要介護者の自立や自己実現を達成し、QOLを向上させるために必要な関連職種の連携のあり方についてまとめた上で、さらに連携がもたらす効果について論述しなさい。
3 単位め	要介護者の生活援助を展開する上での基本的な介護技術をまとめなさい。その上で、要介護者がその人らしく生活することの意義を考え、さらにそれを可能にするために専門職者としてのあり方について具体的に論述しなさい。
4 単位め	① 認知症高齢者の状態像についてまとめ、周辺症状（行動障害）への対応方法も含め、専門職に求められる認知症介護のあり方について論述しなさい。 ② 生活の質としてのターミナルケアを実践していく上での考え方と、具体的な援助方法について論述しなさい。（①②の両方について解答すること）

アドバイス

本科目では、要介護者の生活援助をする上での知識や、その背景にある理念、概念を習得することにより、要介護者への福祉的援助を行う者としての基盤を構築することを学習の目的としています。目的を達成するためには、テキストや資料を熟読し、その内容をまとめるという作業が求められます。さらに、学習を展開させる過程においては、必要な情報を、資料や文献から検索する力やそれらをまとめて自身の考えを論述する（総括・考察）力も求められてきます。本科目では、そのような体系的な学習法を習得するために、レポート課題は以下のように段階的に展開する形に構成しています。

まず、①各单位において必修すべき内容（理念や概念的な内容）を、テキストを参考にし、要約することを行います。その上で、②その内容を福祉実践に生かすための具体的な知識や技能、考え方、また、現状などをテキストや他の資料などを基に調べたり、考えたりし、最後に、③各单位で示す課題に対して考察を行い論述していただきます。

本課題を考察するに当たっては、介護に関する社会的動向や問題に注目したり、インターネットを利用して情報を収集するなど、常に最新の福祉情報を得よう心掛けて下さい。そのような過程を基に、広い視野で学習展開をされることを期待します。

1単位め
解説

介護の本質をどのように捉えるか、といった「介護観」について考えることが核となります。序章から第1章をよく読み、介護の概念を専門的視点から簡潔にまとめ、さらには専門職に求められる介護の神髄と職業倫理についてを具体的な社会の動向と関連づけながら論述してください。

2単位め
解説

要介護者のニーズに応じた質の高い介護（生活支援）を提供するための「関連職種の連携」について、テキスト第3章をよく読み、「保健・医療・福祉の連携」「利用者主体の連携」を中心に簡潔にまとめ、連携が要介護者の自立や自己実現、更にはQOLに、どのように影響や効果をもたらすのか、その重要性について、自身の考えを論述してください。

3単位め
解説

専門職として、介護（生活支援）を展開する上での基本的な専門技術を第4章を中心に、理論的根拠を踏まえた上で簡潔にまとめてください。ここでは「介護」とは、直接援助のみならず、間接援助であるコミュニケーションや生活環境等も含まれることを理解しておいてください。専門職としての介護のあり方も介護保険制度の導入と共に変化しています。介護保険の基本理念である「利用者本位」「自立支援」を適切に具現化する上での「その人らしい生活」の意義について自身の考えを述べ、基本的な専門技術の個別展開のあり方について論述してください。

4単位め
解説

① 高齢社会と共に認知症高齢者が増加し、認知症介護についてはゴールドプラン21に基づいて国レベルで取り組まれています。これまで「問題行動」と言われてきた周辺症状も近年では「行動障害」と呼ばれるようになり、さらに「BPSD」という新たな概念が出てきました。ここでは、新たな介護の専門性を押さえる意味で、第5章2節を中心に「認知症高齢者とは」といった状態像をまとめ、認知症高齢者に対する適切な生活援助を展開する上での介護のあり方について、周辺症状（行動障害）への対応を含めて論述してください。

※ 「痴呆」という用語は、侮辱的な表現である上に、「痴呆」の実態を正確に表しておらず、早期発見・早期診断等の取り組みの支障となっていることから、平成16年12月24日「痴呆」に替わる用語に関する検討会報告書が厚生労働省より出され、「認知症」という用語に呼び替えることになりました。

「認知症」への変更にあたっては、単に用語を変更することが目的ではなく、「認知症」に対する誤解や偏見の解消等という点からも正しい理解を深めてください。

② 生活援助におけるターミナルケアのあり方を、生活（命）の質を重視した「ホスピスケア」の視点から捉え第5章3節を中心に要約し、生活支援の視点においてターミナル

ケアを実践していく上での自身の考え方を述べ、具体的な援助方法について論述してください。

科目修了試験 評価基準

- 1) 出題された課題の内容について理解できているか。
- 2) 課題に対する解答が指定のテキストの内容を踏まえているか。
- 3) テキストの内容を踏まえて、課題に対する自身の視点で考察がされているか。
- 4) 記述の分量が、800字程度以上書かれているか。

参考図書

- 大島侑監 杉本敏夫・島津淳編著『介護福祉論』ミネルヴァ書房、2002年
- 太田和雄編著『ターミナル・ケアの実践』先端医学社、1996年
- 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規出版、2009年
- 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ』中央法規出版、2009年
- 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ』中央法規出版、2009年
- 本間 昭編『介護福祉士養成テキストブック11 認知症の理解』ミネルヴァ書房、2009年
- 柴田範子編『介護福祉士養成テキストブック6 生活支援技術Ⅰ』ミネルヴァ書房、2009年
- 柴田範子編『介護福祉士養成テキストブック7 生活支援技術Ⅱ』ミネルヴァ書房、2009年